

## 科学館のあり方検討会議について

### 1. 会議開催日時

- 第1回 平成27年10月15日（木） 15:00～16:30  
検討項目「科学館の現状と今後について」
- 第2回 平成27年12月15日（火） 14:50～16:20  
検討項目「科学館のコンセプトや機能・展示などについて」
- 第3回 平成28年 3月10日（木） 15:00～16:30  
検討項目「科学館のコンセプトや機能・展示などについて」

### 2. 会議構成員（敬称略、50音順）

- 安部 高子（北九州商工会議所女性会副会長）  
伊藤 克治（福岡教育大学教授）  
上田 恭一郎（北九州市立いのちのたび博物館館長）  
城戸 宏史（北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授）  
新庄 希代子（北九州市PTA協議会副会長）  
中野 多恵（九州工業大学助教）

### 3. 検討内容の要旨

#### （1）コンセプトに関連する発言

- ・科学館で目指すべきは子どもたちの学力向上
- ・文科省の指導にも合致するよう、アクティブラーニングという概念を入れるべき
- ・「科学的なものの見方を身につける」に「考え方、思考」を追加する
- ・類似施設、周辺施設との差別化を図り、共倒れしないようにする必要がある
- ・周辺施設との住み分けを検討すべき
- ・科学館なので技術が前面に出ない方が良い
- ・科学で北九州からノーベル賞をだすような意気込みがほしい
- ・ソフト、ハード両面からユニバーサルミュージアムをめざす
- ・施設の名称の検討に際し、子供に親しまれる愛称を検討する

#### （2）ターゲットについての発言

- ・最大のターゲットはあくまで子どもであるべき
- ・メインターゲットは子供であるが、若者などを限定せず、すべての方々を狙う
- ・子どもやその親、祖父母のみが来るのではなく、デートスポットのようになればよい
- ・商圈の設定は広くとってもよいのではないか
- ・インバウンドの来訪・利用を積極的に受け入れる

### (3) 持つべき機能についての発言

- ・プラネタリウムというのは、どこでもすごく人気がある。名古屋のプラネタリウムも、非常に熱心な女性の方がいて、とんでもないものを作り上げた
- ・プラネタリウムは北九州らしいプログラムを盛り込むなどして差別化を図るべき
- ・プラネタリウムで最後に必ず「夜外に出ておうちの人と星を見て下さい。」と言っている。できればそういう機会（「星の観望の夕べ」など）は欲しい
- ・プラネタリウムを鑑賞した後に、本物の星を観察できる望遠鏡を用意する
- ・ICT環境を充実し、施設内、展示室内での学習や体験を充実させる
- ・児童文化科学館では、天文クラブ、発明クラブなどのクラブとか単発の教室とかも希望してくださる市民の方も多いので、ワークショップのスペースが必要
- ・プラネタリウム以外に、「あの実験にだったら千円払うよ」みたいな目玉になるもの（サイエンスショーなど）がいる
- ・学習の補助となるよう、事前や事後に使える理科室のような部屋があればよい
- ・昼食場所となるスペースを十分に確保すべき
- ・展示準備室が必要である
- ・トラックヤードからの搬入経路が必要である（※バリアフリーで搬入できること）
- ・常設展の中にワークショップスペースが必要（※施設の魅力維持の為）
- ・レストスペースを充実させる
- ・団体対応をフレキシブルに対応できる場所を用意する
- ・市民参加やボランティアの方が立ち寄り、過ごせる部屋を作る

### (4) 展示についての発言

- ・最先端の展示や企業展示は更新可能な企画展示として実施してはどうか
- ・企業連携も視野に入れる
- ・北九州市には先端企業がたくさんあるので、そういったところとの連携は結構なこと
- ・企業展示ブースでは、技術の原理を紹介するようにしてはどうか
- ・スタッフで更新可能な展示など、継続性を考えたシステムの構築が重要
- ・専門用語は不要で大人も子どもも分かりやすいことが必要（※文字の大きさ、内容ともに）
- ・外国人など多様な来館者に対応するために、展示の体験性と多言語対応した解説計画を充実させる
- ・デジタル手法は是非取り入れるべき
- ・スマートフォンの普及に伴い、撮影したものを友人に発信するなどロコミ効果があるため、体験中に撮影できたり、記念写真が撮れるようにする
- ・現在の科学館にある、古い展示物を新しい科学館にも設置する。歴史的価値のある展示物なので活用するとともに、市民の思い出を育むものとする

## **(5) 運営面についての発言**

- ・ 大学との連携を検討すべき。学生が子どもたちに科学を教える場となることを期待している
- ・ 直接疑問を尋ねられる案内スタッフがいればよい
- ・ 運営、維持に関する長期的な計画を当初からすべき
- ・ 集客の目標を定める必要あり
- ・ 学芸員を育てて施設とともに成長することが必要
- ・ 教員の研修機能を持っていてもいいのではないか
- ・ ボランティアを長年に渡って活躍しておられる人々との連携を強くする  
一部は通訳など高度な業務を依頼できるため、市民の力を運営に反映する